

【ラダー図】

プロジェクト名 : TimeCMP
 プログラム名 : Main

- SENSE : 光センサー
- ALARM : 警報
- CLK : 計測用クロック
- COUNT : 計測カウンタ
- DMO~ : 計測値保存用 リングバッファ
- FINI : 計測完了フラグ
- RING : リングバッファ数
- Check : 差分確認用変数(無くてもOK)
- Threshold : 差分値限界
- INI : 初期化待タイマ

00001

Initial

00002

#0

CALL

00003

■ 計測Routine

00004

- センサがONすると、カウンタを初期化し、警報をOFFにする。

00005

@R000

STG

■ SENSE

#0

DW

COUNT

■ ALARM

(RES)

@R002

JMP

■ Top.
TimeCount

Count.
Time

00006

- センサがOFFするまでクロック(1ms)をいカウント。
 - センサがOFFしたら、カウント値をバッファへ代入し、計測終了フラグをセット。

00007

@R002

STG

CLK

#1

CLK

T

S

COUNT

(INC. S)

Count.
Time

00008

■ SENSE

COUNT

(LDA. S)

DMO:Z1

(STA. S)

FINI

(SET)

@R004

JMP

INC.
Pointer

00009

- 「■ Sequence Routine」では比較判断が終了したら、計測終了フラグをリセットするので
 フラグのOFFを確認し、次の計測値を書込むアドレスを更新、振出へ戻る。
 - Z1は他で使用しない様注意。

00010

@R004

STG

FINI

Z1

(INC. L)

Z1

(LDA. L)

RING

(ANDA. D)

Z1

(STA. L)

@R000

JMP

INC.
Pointer

■ Top.
TimeCount

00011

■ Sequence Routine

00012

- 1個目は比較しないので、次の処理へ。

00013

@R100

STG

FINI

FINI

(RES)

@R102

JMP

■ Top.
Initial

CMP.
Data

00014

- 前回のデータが格納されているアドレスを計算。(Z2へ代入)
 - (今回データ) - (前回データ)が[Threshold]を超えていたら[■ALARM]をセットし、振出へ。
 - [Threshold]を超えていなければ、そのまま計測終了と初期化時間を待つ。
 - センサOFFの時間が初期化時間を超えれば、振出へ。

【ラダー図】

プロジェクト名 : TimeCMP
 プログラム名 : Main



【ラダー図】

プロジェクト名 : TimeCMP
プログラム名 : Main

